［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年10月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4170300232
法人名	医療法人 啓心会
事業所名	グループホームけいしん
所在地	佐賀県鳥栖市飯田町69－1 （電 話）0942－81－1185

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 19年 9月 18日	評価確定日	平成 19年 10月 12日

【情報提供票より】（平成 19年 4 月 1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	13 人	常勤 13 人，非常勤 0 人，常勤換算 7 人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2 階建ての 2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000 円		その他の経費（月額）	実費 円
敷 金	有（ 円）		(無)	
保証金の有無 （入居一時金含む）	(有)（ 100,000 円） 無		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり	円		

（4）利用者の概要（ 4月1日現在 ）

利用者人数		18 名	男性	4 名	女性 14 名
要介護1		3 名	要介護2	5 名	
要介護3		9 名	要介護4	1 名	
要介護5		0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均	86 歳	最低	77 歳	最高 94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	門司歯科医院 啓心会病院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

豊かな田園風景に囲まれたグループホームで、共有空間からはその風景を一望することができる。職員は、「家庭的で楽しい雰囲気の場を提供します。ふれあい、よりそい共に関わりながら共同生活を致します」という理念のもとで、日々のケアに取り組んでいる。このホームの大きな特徴として、地域とのつながりが強いことが挙げられる。季節の行事や、防災時の対応など、多くの支援を地域から受けている。また、ホームも地域にその機能を還元していることが調査から伺えた。また、医療法人が設立しているグループホームのため、様々な面でスケールメリットを生かしたホームの運営が行なわれていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	過去の外部評価などで、指摘された点についても、その評価を活かして具体的な改善に取り組まれており、改善がなされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解されており、聞き取り調査などでも、その様子が伺えた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	2ヶ月に1度、地区の区長・民生委員・施設の代表者と運営推進会議が行なわれており、日常の取り組みについて評価をし、記録を残すことで、日々の介護に役立てられていた。しかし、市との連携といった点については、会議への市の参加を呼びかけてはいるものの、実際には参加されていないため、市との連携が取れているとは言い難い。今後も、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいくためにも、さらに粘り強く参加交渉を行われることを期待する。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	年1回の家族会や、家族等の訪問時に情報交換を行うことで、双方が話しをする機会を作っている。また、運営推進会議にも、家族の代表者に出席をしてもらっている。しかし、入居者個々の様子の家族等への情報提供については、電話や、面会時に行なわれており、今後は、面会に来られない家族等にも、一人ひとりの様子について、文章にしてホーム便りと一緒に送付するなど、さらに入居者の様子を家族等へ伝えることができるような工夫を期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	地域の方にも参加してもらい運営推進会議が行われている。行事、避難訓練なども地域の方の参加のもと、企画段階から協力が行なわれている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、職員の話し合いのもとで「家庭的で楽しい雰囲気の場を提供します。ふれあい、よりそい共に関わりながら共同生活を致します」という理念をつくりあげていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、職員全員が毎日の朝礼で唱和されており、共有化を図られていた。また、利用者や、家族の目に付きやすい場所に掲示されていた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方にも参加してもらい運営推進会議が行われている。行事、避難訓練なども地域の方の参加のもと、企画段階から協力が行なわれていた。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組まれており、過去の外部評価などで、指摘された点についても改善がなされていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地区の区長・民生委員・施設の代表者と運営推進会議が行われていた。また、行事や取り組みについて評価をしてもらい、記録を残し日々の介護に役立てられていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	高齢者グループホーム事業所連絡会等へ市の参加を呼びかけてはいるものの、実際には参加されていなかった。また、日常的な市との連携も十分には取られていなかった。	○	市へ参加の呼びかけをされているが、運営推進会議への参加もなされていなかった。今後も、さらに粘り強く、参加交渉を行なっていき、市とともにサービスの質の向上に取り組まれることを期待する。
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを毎月作成し、ホームの様子・行事の報告や写真、健康診断の予定等を記載し、訪問時に手渡したり、郵送されていた。金銭管理については、買い物などでお金が必要な時、自己管理が出来ない方は、立替払で毎月の利用料請求時に一緒に請求し、支払い時に領収証を渡されていた。	○	丁寧なホームたよりが作成されていたが、入居者個々の様子の家族等への情報提供については、電話や、面会時に行なわれていた。今後は、面会に来られない家族等にも、文章にしてホーム便りと一緒に送付するなど、さらに入居者の様子を家族等へ伝えることができるような工夫が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年１回の家族会で意見交換が行われていた。また、家族等の訪問時に情報交換を行うことで、双方が話しをする機会を作られていた。また、運営推進会議にも、家族の代表者が出席されていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体に医療法人があるが、スタッフは固定されており、法人間での異動はほとんどなかった。また、職員が退職する際にも、入居者に対して早期に周知をすることにより、極力入居者へのダメージを防ぐ配慮がなされていた。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用された職員は教育期間を決め、業務内容毎にその業務に従事する先輩職員から仕事を習得されていた。また、職員は法人内の研修を含めた各研修や講習に順番に参加されており、終了後は報告会や、報告書の作成により、周知が図られていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月１回の高齢者グループホーム連絡協議会の出席や、研修参加時に作ったネットワークを通じて、情報交換やお互いの施設見学等が行なわれていた。良いと思う所は職員に周知し、日常の業務に生かされていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の生活歴や職歴、趣味など、入居者、家族等とゆっくり話しをしながら情報を収集されていた。その情報を職員で話し合い、支援内容を明らかにされていた。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の方々と共に過ごすなかで、感謝や、励ましなどの場面に応じた言葉かけが行なわれていた。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族等から話しを聞くなど、入居者をより理解しようと努められていた。また、時々の場面で知り得た情報を職員全員で共有することにより、同じ対応が出来るようにされていた。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎朝の申し送りや仕事終わり時の終礼で小さな事でも気づきを出し合うことにより、カンファレンスやモニタリング、サービス担当者会議の際には、介護計画作成に活かされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間毎にモニタリングが行われ、職員一人ひとりの意見を出しあうことで、一人では気づかない意見もあり、共有されていた。また、入居者の状態の変化毎に、カンファレンス、サービス担当者会議を行っており、入居者の心身状態にあったサービス計画が作成されていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設されているデイサービスとの年4回の合同行事や介護者教室等に入居者や家族も参加されていた。又、入居者の特別な外出の希望にも個別に対応することが出来ていた。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院に受診されているが、入居以前からのかかりつけ医への受診希望があれば、その時は家族支援により受診が行われていた。家族が行けない場合は、グループホームで対応されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体に病院がある為、終末期の介護は行われていなかった。入居者の体調変化時は家族や病院と連絡を取りながら対応されていた。	○	終末期の介護を行なわないというグループホームの方針を、家族等に入居時や家族会などで口頭で伝えられていた。重要なグループホームの方針については、文章等で明記されたものを使用し家族等に伝えておくことが望ましい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては、法人の委員会があり、その取り決めに沿った取り扱いがされていた。また、入居者のプライバシーへの対応についても、適切に対応されていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は先回りや行動などの制限を出来るだけしなようにし、入居者の力を引き出す努力をされていた。また、ゆったりとした対応をすることで、一人ひとりのペースを尊重した支援が行われていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたい物など聞きながら、季節を感じられる献立が立てられていた。調理準備では、盛り付けや味見・箸や湯飲み等のセッティングをして貰ったり、食器洗いやお盆拭きなど、出来る範囲で職員と一緒に行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回の入浴日が設定されているが、入居者の希望にあわせて行われていた。入浴時は綺麗に洗う事が出来ているか、さりげない見守りを行ないながら、サポートされていた。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節折々の行事がホームで行なわれていた。また、行事の際は家族等にも声かけが行なわれ、一緒に楽しまれていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの前には神社があるなど、散歩するには良い環境が整っているので、声かけをして出かけられていた。また、急な外出の希望にも、可能な限り対応がなされていた。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	条件的にホームが2階であること、目の前が県道であることを念頭に置き、常に入居者の様子の変化を職員が気付き注意をされていた。また、センサーなどを利用することで、日中は鍵を掛けないケアが実践されていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設（1階部分）のデイサービスとの合同防火訓練が昼間の時間帯で年2回、ホーム単独では毎年4月に夜間対応の消防避難訓練が実施されていた。地域の方々も参加され、職員・入居者がそれぞれの役割をし、毎年違う役割で経験を積まれていた。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	開設当初は栄養士の指導を受けられており、現在も勉強会を継続されていた。水分はいつでも摂取できるように、夜間は各居室にお湯飲みが置かれていた。また、定期的な水分摂取、食事の摂取量、体重チェックが行なわれており、必要に応じ医師の指導も受けられていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者が作成した、季節を感じさせるパネルなどが飾られており、温度や日差しが調整され快適な環境作りがされ、入居者もくつろがれていた。また、食事中はテレビを消して音楽を静かに流すなど、場面ごとに工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室等への家具や、身の回りの品の持ち込みは自由であり、テレビの持ち込みもされていた。家族等の写真や小物入れ、入居者の手作り作品やそれを飾る物など、本人の希望で持ち込まれていた。また、家族が訪問時に気が付いた物を持参したりされていた。		